

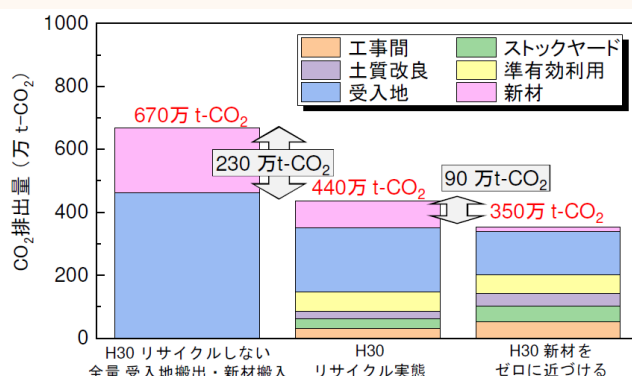
JASRA ニュース VOL.12/2024.11.11

建設発生土リサイクルが CO₂ 削減に寄与

2024 年 10 月 30 日に広島で開催された「2024 建設リサイクル技術発表会」（主催：建設副産物リサイクル広報推進会議）において、京都大学 大学院地球環境学堂社会基盤親和技術論分野の加藤智大助教の研究により、建設発生土リサイクル活動が CO₂ 排出量削減効果をもたらすことが発表されました。

研究の要旨は、カーボンニュートラルを目指した CO₂ 排出量削減の取組として、建設発生土の処理及び運搬に伴う CO₂ 排出量の算定方法を検討したものです。具体的には、建設発生土の掘削、積込み、運搬、土質改良、敷き均し、締固め、新材採取などの作業要素を H30 建設副産物実態調査に基づいて「リサイクルしない」「H30 実態」「新材利用量をゼロに近づける」の3パターンで比較検討が行われました。

結果として、建設発生土約 1.3 億 m³ をリサイクルしない場合に比べて、H30 実態は約 230 万 t の CO₂ 排出量削減、さらに新材利用量をゼロに近づければ 90 万 t の CO₂ 排出量削減できると算定されました。なお、230 万 t-CO₂ はスギ 2.6 億本の森林面積÷東京ドーム 5.5 万個分÷佐賀県の面積に相当、90 万 t-CO₂ はスギ 1 億本の森林面積÷東京ドーム 2.1 万個分÷大阪府半分の面積に相当します。



また、CO₂ 排出量を低減した土質改良材の開発が進んでおり、土質改良に伴う排出量低減が期待できるとの指摘があり、今後の研究の進展が注目されます。

吉光組が 2024 年度建設資源循環利用促進賞を受賞！

建設副産物リサイクル広報推進会議による「建設資源循環利用促進賞」は、建設事業における再生建設資材をより一層利用することを目的として、建設発生土、建設汚泥処理土、再生骨材コンクリート、建設発生土土質改良土を対象として、自主的にその利用量が多い工事事業者または工事元請業者を表彰するものです。2023 年度 COBRIS 登録工事において、（土質改良土利用が工事発注条件となっていない）建設発生土・土質改良土利用量が全国で最も多い元請業者として、JASRA 会員の「株式会社吉光組」が表彰されました。



▲左から、建設副産物リサイクル広報推進会議・五道仁実会長、（株）吉光組・吉光成寛副社長

会員紹介

JASRA 中部支部静岡県部会

静岡県静岡市駿河区広野 2284-4
TEL 0120-829-266

静岡県「みらいの県土研究会」について

2023 年の資源有効利用促進法省令改正による建設発生土を取り巻く環境が大きく変化したことをきっかけに、静岡県では、県内の発注機関、建設業団体、建設発生土リサイクル業者、学識経験者らを集めた「みらいの県土研究会」が発足されました。

同研究会では、建設発生土のリサイクル原則化ルールの方針策定、発生土利用基準の方針策定など、循環型社会の構築および 2021 年に発生した熱海の土砂災害を教訓とした盛土対策を目指す方針が提唱されました。現在、第5回まで会議が開催されています。

参考：<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/recycle/recycle/1039953/1054709/index.html>

2024 年 3 月、静岡市にて県部会発足

「みらいの県土研究会」には、JASRA の役員がアドバイザーとして出席している関係もあり、第4回が開催された 2024 年 3 月 19 日に、静岡市内において、JASRA 運営委員の皆様と静岡県所属の会員で意見交換を行いました。その結果、他県の取り組みを参考にしながら静岡県内で建設発生土リサイクルを推進するために、JASRA 中部支部静岡県部会を発足することとなりました。初年度の部会長には帆高宏史氏（(有)帆高建材工業）、副部会長には鶴岡洋介氏（鶴よし建設(株)）、事務局長には増田慎司氏（(有)アダプト）が就任しました。



▲JASRA 中部支部静岡県部会発足式の様子

2024 年 4 月、三島市にて勉強会を開催

2024 年 4 月 22 日、静岡県部会が窓口となって三島市主催の建設発生土に関する勉強会が開催され、JASRA 運営委員に講師になってもらいました。当日は市の職員 31 名が参加して活発な質疑応答が交わされるなど、建設発生土に対する行政の問題意識が高まっていることを実感しました。



▲三島市建設発生土に関する勉強会の様子

改良土品質ガイドラインの策定

現在、静岡県部会では、改良土の品質ガイドラインを策定中です。

静岡県のなかで「改良土」を普及させるためには、一定の品質ガイドラインを設けることが必須であると考えており、現在のところ、他県の基準を参考にガイドラインを検討しています。今後、静岡県と協議を重ね、策定に向けて活動を続けて参ります。

静岡県部会のプラント一覧

2024 年 10 月現在、静岡県部会所属のプラントは次ページに示す 6 件となっております。

有限会社 帆高建材工業

〒421-0121 静岡県静岡市駿河区広野 2284-4
TEL : 054-258-7150

静岡市の建設発生土・土質改良は帆高建材工業へ！



有限会社アダプト

〒433-8104 静岡県浜松市北区東三方町 400-1
TEL : 053-415-9005

環境系重機を用いた自社重機自社施工が強み



株式会社心絆

〒421-0422 静岡県牧之原市静波 1703-12
TEL : 0548-23-9381

建設発生土を有効利用する会社です！



芝田重機有限会社

〒421-0502 静岡県牧之原市白井 3-1
TEL : 0548-54-1236

地域に貢献出来る企業を目指します



鶴よし建設株式会社

〒411-0015 静岡県三島市市山新田 90-6
TEL : 055-991-6600

「甦土クリーン」建設発生土の再生、利活用は鶴よし建設へ



株式会社サンウッド

〒410-0302 静岡県沼津市東椎路 12
TEL : 055-955-7673

沼津の建設発生土リサイクルはサンウッドへ！



会員紹介

株式会社 フジモト

岡山県岡山市北区柳町 2-10-25
TEL 086-233-0800

フジモトについて

当社は 1971 年に海砂の採取・販売事業から歴史をスタートさせました。1989 年には、現在の事業所（岡山市北区下足守 936-1 他）で、約 4ha の山林において林地開発許可を取得し、真砂土の採取・販売事業を開始しました。

2000 年代初めに瀬戸内海での海砂の採取に関する法規制が行われて以降は、軸足を林地開発に絞り、経営を継続してきました。

当社の事業所は、岡山市、倉敷市、総社市といった岡山県南部の主要エリアに近接し、岡山市中心部から約 10km、岡山空港から 5.5 km、総社 IC から 3.5 km の距離に位置しています。



建設発生土の受入れ



- 2006 年：約 4ha の林地開発許可を変更申請し、建設発生土の受入れ許可を取得。
- 2012 年：隣接地と賃貸借契約を結び、事業範囲を 10ha に拡大し、林地開発許可を再取得。
- 2015 年：賃貸借契約を結んでいた土地を含む約 150ha の山林を購入。
- 2021 年：事業範囲を 20ha に拡大し、林地開発許可を再取得。

※現在、2,000,000 m³超の建設発生土の受入れ（埋立）が可能です。

岡山県エコ認定（改良土製造）

建設発生土受入れに並行して、2014 年には改良土の生産を開始し、『岡山県エコ製品』の認定を取得しました。

改良土の品質規格は以下の通りです。

- 最大粒径 40mm 以下
- 細粒土分含有量 25%以下
- 設計 CBR12%以上
- 含水比 30%以下
- 塑性指数 10 以下
- コーン指数 800kN/m²以上

ストックヤード事業



2023 年からは、受入地とは別の約 7ha の土地を活用し、建設発生土ストックヤード事業を開始しました。

現在は、国土交通省中国地方整備局と賃貸借契約を締結し、2024 年 9 月末時点で、約 15,000 m³の建設発生土をストックしています。

真砂土採取販売

真砂土は、自社保有の山から採取される良質な山土を振動ふるい機にかけ、最大粒径 30mm と 5mm の製品を製造販売しております。

真砂土の採取量は豊富で、長期的・安定的に供給可能です。



今後の展望

今後は、建設発生土の受入地・リサイクル・ストックヤードを通じて、建設発生土の官民マッチングに貢献し、必要な時に、必要な場所に、必要な土を循環させる「ハブ」としての役割を強化していく考えです。

そして、この山の未来の見据え、50 年かけて木を植え、森を育てるのと同じように、私たちは土を正しく循環させ、この山をよりよい姿にしていつか地元にお返ししたいと考えています。それが、地元にながされ、地元とともに生きる、私たちの素直な想いです。

JIMOTOと、ともに。
FUJIMOTO



▲「フジモト」ホームページはこちらから

第9回技術研修会 報告

「改良土プラント企業3社による品質管理」

令和6年9月10日、第9回オンライン技術研修会「改良土プラント企業3社による品質管理」が開催された。講師は、品質・技術部会メンバーの(株)ホツマプラント 大和田伸也氏、三立建設(株) 塩野真康氏、大坪 GSI(株) 花島浩幸氏にお願いした。

冒頭に、部会長である(株)吉光組 吉光成寛氏から「改良土の利用を広めるには、品質管理は必須事項である」との説明があり、宮城・埼玉・福岡に所在するプラントの品質管理方法を紹介した。

大和田氏は、東北唯一のセメント系改良土の出荷プラントであることを述べた上で、「セメント系固化材を利用した改良土の品質管理には、六価クロムの溶出試験が欠かせない」として、固化材製造元から毎月試験表を取り寄せ、改良土の配合試験時にも検査。また、仙台市の基準として最大粒径20mm以下/40mm以下、CBR 8%以上の試験を1週間に1回の割合で行っていると説明された。

塩野氏からは、埼玉県での改良土基準である「最大粒径20mm以下、CBR 6%以上・平均20%以下」を守るために1,000 m³に1回試験を行っており、原料となるストックヤードの建設発生土に関しては含水比を毎日測定して品質管理を行っているという説明された。

花島氏は、福岡県の改良土基準である「最大粒径40mm以下、細粒分(75μm以下)含有率25%以下、修正CBR 12%以上」を管理。粒度試験、突き固め試験、含水比試験を毎月1回、修正CBR試験は半年に1回行っていると説明した。

これらを踏まえ、吉光部会長は「地域によって改良土の品質管理方法は様々であり、JASRAにおいて一定の品質管理基準を推奨する必要がある」とし、今後、そのガイドラインを示す方針であると述べた。



(株)吉光組 副社長 吉光成寛氏

お知らせ

【1】行事予定

- ・11月21日(木):第5回建設発生土リサイクル講習会 ～資源有効利用促進のための建設発生土リサイクル～/会場:航空会館ビジネスフォーラム(東京・新橋)

【2】11月11日現在の会員数

- ・正会員68社 賛助会員31社 特別会員2社 合計101社

【3】投稿記事の募集

- ・「JASRA ニュース」では、会員の皆様からの投稿記事を募集しています。ご希望の方は、下記事務局までお問合せください。

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町22

電話: 03-3526-2129 FAX: 03-3526-2139

E-mail: info@jasra.or.jp URL: <https://jasra.or.jp/>

-----JASRA ニュース VOL.12 令和6年11月11日発行-----